

子供が夢中になる「なつてみたい」「やつてみたい」の運動遊び

学校名 雲南市立海潮幼稚園・掛合保育所（島根県）

海潮幼稚園 18名（年少4・年中5・年長9人）

掛合保育所 104名

（本事例に係る問合せ先）

海潮幼稚園 Tel.0854-43-2298

掛合保育所 Tel.0854-62-9900

1 研究のねらい

雲南市の子供の運動測定から得られる課題解決と、遊びをとおした運動の啓発

2 研究の概要

実践調査研究委員会においては雲南市の子どもの実態把握を行い、乳幼児期における子供の発達、運動遊びの継続性、保護者意識の変容、保育現場に即した内容などを視点とし「理論編」と「実践編」に分けて、遊びをとおした運動の啓発と実践に取組み、検証することとした。

○実践プログラムの紹介

□ 多様な動きを経験できる遊びの工夫例



多様な運動遊びを「させる」のではなく「したい」気持ちにすることや運動遊びを日常化させる環境づくりの啓発のため、運動保育士を招き実践研修を行った。

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 事前に保育所職員と入念な打ち合わせを行い、用具等の確認を行った。
- 2 子どもやクラスの状況を講師と事前に打合せをした。

○成果の意義と今後の課題

- 1 「わくわくうなんピック」と称した幼児の体力測定にあわせて様々な体の動きを取り入れた運動遊びの機会と場を提供した結果、雲南市の幼児の体力水準データが得られ、職員の啓発にもつながった。又、運動保育士の実践をとおして子供の体の動きを誘うための環境づくりや大人のかかわりなどに変容が見られ広く保育者や地域運動指導員の意識向上につながってきている。

○ 研究内容

【わくわくうなんピック】

市立体育館に幼児を集め様々な運動遊びに取組んだ。



【わくわくうなんピック】

様々な測定種目とチャレンジ種目に取組んだ



【子どもを誘う運動遊び】

やってみたい、なってみたいの運動案内



【子どもを誘う運動遊び】

やってみたい、なってみたいの運動案内

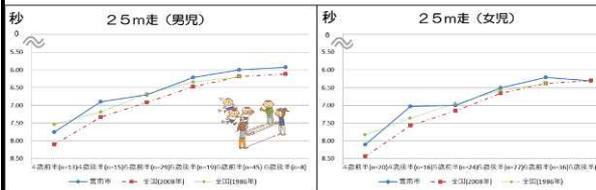


【わくわくうなんピック】

わくわくうなんピックの取組み及びアンケート結果について

わくわくうなんピック（体力・運動能力）

- 雲南市(2012-2013年)...調査人数 284人(男児137人、女児147人)
- 全国(2008年)...調査人数 11,520人(男児5,887人、女児5,615人)
- ◆全国(1986年)...調査人数 9,023人(男児4,570人、女児4,453人)



○雲南市幼児の25m走は、6歳後半女児を除き、全国平均値(2008)と比べ高い値であった
 ○雲南市幼児の25m走は、4歳前半および5歳前半を除き、全国平均値(1986)と比べ高い値であった

資料出典
 雲南編 杉浦隆、三田伊津美、高井美次郎、鈴木慶弘、中津忠博、近藤亮夫、2010、「2008年の全国調査からみた幼児の運動能力」保育の科学 第60巻 58~66
 近藤亮夫、松田雅典、杉浦隆、1987「幼児の運動能力」1986年の全国調査結果から」保育の科学 第37巻第7号、551~554
 幼児期運動指針実践調査研究委員会 2014.2.21.

先生・保護者の感想（抜粋）



- ★わくわくうなんピックについて（先生）
- ・意欲的に取り組む子ほど体力が高い
 - ・力強さだけではなく、動きを正確に行う子どもの力に注目できた
 - ・普段の保育で経験できない動きができた
 - ・測定結果を保育に活かしたい



- ★活動量の測定について（保護者）
- ・腰につけるとパワーが出ると思っており、転んでも泣かなかった
 - ・歩数計を返却して元気がなくなってしまうのが心配
 - ・歩数計をつけたことで子どもの動きたいという意欲がでた
 - ・子どもの意欲に応えようと休日に外へ出かけた



幼児期運動指針実践調査研究委員会 2014.2.21.

【雲南市の幼児期運動プログラム】

生活の場面に応じた運動機会の提供について

保育園や幼稚園においては、保育者がプリアーガーの役割を担い、子供たちの「遊びたい」という欲求を引き出す環境を構成すること、多様な運動体験ができるような仕掛けづくり「いざない」が重要なポイントになると考えます。また、家庭においては「コミュニケーション」と「お手伝い」がポイントとなります。生れて初めてコミュニケーションを図る家族とのふれあいや大人のまねをしたい、挑戦したい、大人と一緒にならできると子供が感じた時に手間暇かけて大人が関わる事が重要と考えます。地域においては雲南市の環境をどう活用するのが重要なポイントとなります。

雲南市ではこのようなポイントを踏まえた研修を重ねるとともに、基本となるプログラム「実践編」を策定し、子供の発達に応じて活用、応用、発展させるための研修の機会を継続していくことと保護者の意識向上の取組みが必要であると考えています。